

21世紀の下水道を拓く —— 圧送管路

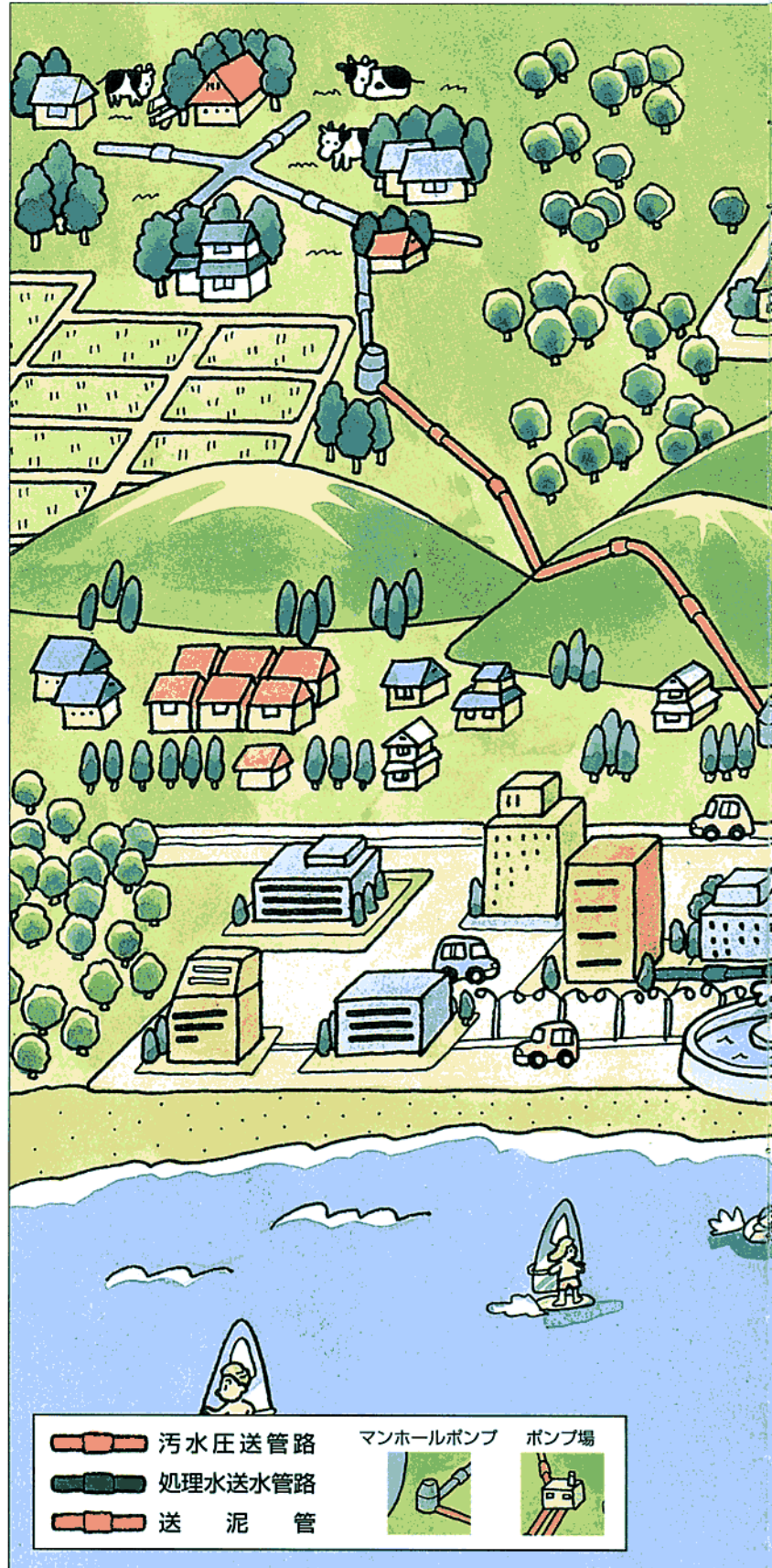
ごあいさつ

新たな第8次下水道整備五箇年計画が平成8年度から始まりました。計画では処理人口普及率66%が目標になっており、中小都市における下水道整備をいかに効率よく進めて行くかが、これからの大きな課題となっております。

下水道は従来自然流下方式を原則として進められてきましたが、近年整備が進むにつれ、自然流下方式だけでなく、圧力式下水道、真空式下水道などの新しい下水収集システムや、幹線等における中継ポンプを用いた圧送方式輸送システムを採用されるケースが増えてきました。又、汚泥の集約処理のための送泥管や処理水の送水管の建設も進められています。

当研究会は、平成元年2月に設立以来、「幹線等における圧送方式管路輸送システム」に関する情報の収集、技術の交流及び研究開発を通じ、下水道事業の普及促進に寄与することを目的に活動して参りました。これからもより一層の技術の向上に鋭意努力致しますので、今後とも、関係各位のご協力とご指導ご鞭撻を賜ります様、心よりお願い申し上げます。

下水道圧送管路研究会
会長 浅田 興弘



輸送システム

